



の み が わ

2007年11月1日発行(通算第47号)

連絡先 〒146-0085 大田区久が原4-19-24

発行 大坪庄吾方 呑川の会

呑川の会 e-mail nomigawa@r00.itscom.net

呑川の会HP <http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>

高橋会員HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



「いたち川」散策のお知らせ

都市の川に自然を復元した、横浜市栄区を流れる「いたち川」を折戸幹事と共に歩きます。

集合日時:11月17日(土)10時

集合場所:JR 根岸(京浜東北)線・本郷台駅 改札口

コース:(歩行距離・約5キロ)

下流の水神橋から上流の尾月橋の間と、途中の矢沢堀小川アメニティを散策します。

帰りは、尾月橋(山手学院入口バス停)より港南台駅までバス乗車 15時頃に根岸線・港南台駅で解散予定。

参加費:500円

その他:小雨決行。

(微妙な場合は福井宛(3729-8827)7時30分から8時迄に連絡下さい)



「いたち川」散策記

(折戸清記)

1. はじめに

以前に多自然型川づくりの本を読んでいたら、都市の水辺に自然を復元した事例として、横浜市栄区を東西に流れる「いたち川」が取り上げられていた。そこで年末も押し迫った12月29日に、栄区役所で発行された散策マップを片手に、川沿いの遊歩道が整備された下流のいたち川橋から上流の尾月橋まで歩いてみた。

2. いたち川の概要

いたち川は江の島付近の相模湾に注ぐ境川の支流柏尾川に合流する、流路9kmの境川水系の二次支川である。散策するための最寄駅はJR根岸線の本郷台駅で、駅前に広がる団地を南に少し歩くと、いたち川にかかる城山橋に達する。

復元前のいたち川は、他の多くの都市河川と同様に、河川改修により河道が拡幅され河床が平滑化し、平常時の水深が浅くなり河川植生も喪失していた。水辺の自然の復元は下流のいたち橋から上流へ向けて進められたが、河川改修前の水面幅を基本に川の中央部を掘り下げて低水路を設け、掘り

下げた時の土を両岸に盛土して河原を設け、改修前の水深と植生を復元している。なお河原の盛土と植生を安定させるために水際には植生ローラーを設置している。また城山橋の下流の海里橋と上流の天神橋の区間には、水際に大石を配置し瀬や淵を作っている。さらに日東橋から尾月橋までの上流域は緑が多く、自然の川の姿をとどめている。

3. 散策して気付き点

いたち川を下流のいたち川橋から上流の尾月橋まで歩いてみて、その間に気付いた点を列挙する。

- イ. 両岸はおおむね遊歩道になっており、車におびやかされずに安心して散策できる。車の往来が激しい新橋や城山橋には、川の散策者用の信号機が設置してある。
- ロ. 随所に河原へ降りられるようになっている。川にはコイがたくさん泳いでおり、カルガモやコサギも居て、生物は豊かな感じがした。
- ハ. 所々に小公園があり、木製で落ち着いた感じのベンチが設置されていて、休憩するのに都合がよい。また河川改修で川を直線化した結果残った旧河道は、そのまま使い公園や緑道にしている。
- ニ. 散策のための距離票や展覧会に出品した石の彫刻が川べりに配置され、また郷土史に関する説明版も整備され、楽しく散策できる。城山橋の辺りは桜並木になっているので、花見もできる。樹木の名札も貼付されており、樹木の勉強に都合が良いし、野鳥や魚の説明版もあり、生物の勉強にも都合が良い。
- ホ. 両岸には河原が作られヨシなどが茂り、所々にはヤナギなどの木も生えている。また護岸はコンクリート造りだと思うが、落ち着いた灰色の石積みのように、殺風景な感じはしない。海里橋から上流の天神橋までの区間には、所々に川の中に大石が置かれ瀬や淵を作り、川の流れに変化を持たせている。
- ヘ. 川べりの遊歩道には鉄製の柵が設置されているが、灰緑色の落ち着いた色で、背丈が高くないので歩きながら川面を見ることができる。また集合住宅や学校が川べりに立ち並んでいるところもあるが、低層なので空がたくさん見え、開放感は損われていない。
- ト. 海里橋上流に落差工があるが、魚道が設置してある。(魚道のそばでコサギが魚を狙っていた。)このほか魚道は、支流が合流する稲荷橋付近にも設置されている。
- チ. 一昨々日の大雨のせいもあるが、川の水量は割に豊かで水もきれいだった。この大雨のせいで河原のヨシが増水で倒れていたが、思ったほどゴミは引っ掛かっていなかった。
- リ. この川の流域は分流式下水道のようで、護岸の所々に雨水吐があるが、一昨々日の大雨のためか、きれいな少量の水が川へ流れ出していた。また海里橋の少し上流にある警察学校の前で下水処理水が流入している。
- ヌ. 栄区役所の前で瀬上市民の森を源流とする瀬上沢小川が合流しているが、本流にかかる大いたち橋と、この小川にかかる小いたち橋の欄干のイタチの像と橋の上のイタチの足跡が可愛らしい。また川の中にはイタチの石像も設置されている。この付近は桜の花見もでき、休憩に良いところである。
- ル. 天神橋付近で荒井沢市民の森を源流とする洗井沢小川が合流しているが、この小川は二重河川で、川の上部に小さな小川と緑道を設けている。また稲荷橋付近で矢沢掘小川が合流しているが、この小川も二重河川で、川の上部に小さな小川と散策木道を設けている。この小川の本流との合流地点にはコーン型魚道が設置されている。
- レ. 天神橋から上流は新開地のように、畑や雑木林が点在するようになる。更に日東橋から上流は、扇橋の水辺・稲荷森の水辺広場・防中の水辺など、河原が広がっており自然の川の姿が良く保存されている。特に稲荷森の水辺広



場の大きな中州には、ヤナギやアキニシなどの木がたくさん生えている。一昨々日の大雨のせい
か、中州の中の沈下橋や木には木の枝がいっぱい引っ掛かっていた。

- フ. 日東橋から尾月橋までの区間の遊歩道には、環境省から助成を受けたソーラー省エネ照明灯が設置されている。
- カ. 流域住民により水辺愛護会が組織されており、川の清掃日を決めて美化活動をしている。
- ク. 尾月橋から上流の紅葉橋までは、現在水辺拠点の整備工事中。
- タ. 下流の海里橋付近を歩いていた年配の女性に尋ねたところ、川の復元後大雨で増水することはあっても、溢れることは一度もなかったと言っていた。水辺の自然の復元と洪水対策との調和が旨くとれているようだ。

4. おわりに

尾月橋から少し歩いて、近くにある上郷市民の森の頂上まで急な階段を登ってみた。頂上はサワラの林の広場になっており、ベンチもたくさんあり休憩に良い。一角には展望台があり、冬晴れの青空に雪を冠った富士山と丹沢の山並みが一望できた。今回は期待に違わず静かで楽しい川べりの散策ができ、最後には富士山の絶景を見て締めくくることができた。

(下 流)

いたち川橋	少し下流で柏尾川に合流。
ニイ ↓	低水路と河原を造成。旧河道を利用した公園あり。
新 橋	散策者用信号機あり。
カイリ ↓	低水路を蛇行させた、その後植生ロールを用い再整備。
海里橋	この橋から天神橋までは、水際に大石を配置。
↓	桜並木あり。魚道あり。下水処理水の流入。
城山橋	北へ行くと本郷台駅に達する。散策者用信号機あり。
↓	桜並木あり。
大いたち橋	左岸に栄区役所。瀬上沢小川が合流。
↓	イタチの石像・欄干・足跡あり。
天神橋	洗井沢小川が合流。
↓	植生ロールを採用。
桂 橋	桂台第一遊水池からの雨水が流れ込む雨水吐あり。
↓	
日東橋	この橋から尾月橋まで、ソーラー・省エネ照明灯を設置。
↓	
扇 橋	この橋から青葉橋までは旧河道にも川が流れている。
扇橋の水辺あり。	
稲荷橋	矢沢掘小川が合流。コーン型魚道あり。改修後の川に架かる橋は辺刈橋。
↓	稲荷森の水辺広場あり。沈下橋あり。桂台第二遊水池からの雨水吐あり。
青葉橋	橋の左岸たもとに證菩提寺あり。
↓	防中の水辺あり。
尾月橋	この橋から上流は水辺拠点の整備工事中。近くに上郷市民の森あり。 上流に大きな遊水池が3個あり。

ハイフチ

(上 流)

(参考文献) : 「多自然型川づくりの取組みとポイント」(財) リバーフロント整備センター

- 10羽の子カルガモ・その後 -

さて前回、カルガモ親子のご報告をして以来、なかなか呑川観察に行けずにいました。その後7月13日の打ち合わせの時、菱沼さんから大雨の後いなくなったと聞き心配していました。そこで蒲田に行ったついでに、蒲田から上流に向けて呑川を歩いてみました。

ちょうど満潮で、蒲田付近は堤方橋まで水位は高く、カルガモ親子の姿は見られませんでした。



さらに養源寺橋付近までさかのぼると・・・
ようやく水位が下がり、段差の無い、休むにちょうどいい状況でした。

しかし、それでもカルガモ親子は全く見られません。

さらに、霊山橋を超えて上流を見ると・・・

水位はさらに下がり、今までのカルガモの子供達の様子



では、こ

の大きな段差は乗り越えられないはずで、
実際に姿は見え、いったいどこへ行ったのでしょうか。

さらに池上橋を超えて上流に進みます。



すると、いました、いました、カルガモ親子の集団です。
ここは長栄橋を超えてさらに上流の根方橋付近です。

もっと近くに寄ってみてみましょう。一番左のママのそば

に、子ガモがー列に並んでいます。

ママは川の方に向いているのに、子供達はなぜか護岸の壁の方を向いています。数えてみると、子供は6羽しかいません。やはり大雨で子供の一部は可哀想に流されてしまったのでしょうか。

おそらく必死に戻ろうと泳いだとは思いますが、疲れ果て力尽きると、それをじっと見ていたカラスやチョウゲンボウが襲います。池上本門寺の森にはチョウゲンボウがいることが知られていますから、きわめて危険です。こうして並んだ子ガモの姿を見ると、ずいぶん大きくなったのを感じます。泳ぐ力も付いて、この6羽は残ったのでしょうか。特に池上橋から上流の呑川はとても急流ですから、今までは無理でしたが、もうこの急流に逆らって上ることが出来るのでしょうか。そしてここ迄来れば、潮の干満の影響は受けず、泳ぎ疲れたらすぐ休む場所があります。池上地域にいたときのように、朝夕の潮の干満で右往左往して移動し、休め



る・眠れる場所を探さなくてもすみます。やがて飛べるようにまで成長すると、もう一緒に固まっていないで、それぞれが行動の巾を広げようです。その時までもうすぐ・もう減らないことを願うばかりです。同時に、行動地域の範囲もグンと広がって、探すのも大変になるかもしれません。

呑川カワセミ記・2007

(高橋 光夫 記)

道々橋 ~ 堤方橋

カワセミ情報を流しているばかりで、新しい孫が生まれて以来、私はなかなか呑川に行けずにいました。ようやく、時間がとれて、呑川に飛んでいきました。

まず潮位表をチェックします。潮位は気象庁の下記HP で知ることが出来ます。

<http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/db/tide/suisan/suisan.php?stn=TK>

今日8月24日の満潮は16:08です。満潮に乗って魚が上ってきますから、この時間帯がチャンスです。



上流から自転車で向かいましたが、13時すぎ、北の橋付近の家屋の屋根にカワセミを見つけました。しばらく見ていると、スーッと呑川に向かって降りてきました。ところがなんと池上橋を超えて下流へ。あわてて追いかけても、二国の信号にさえぎられて、すぐには渡れず、浄国橋付近まで追ったのですが見失いました。この時間では、満潮にほど遠く、下流の方が魚がいるのでしょう。しかたなく、自転車でぐるぐる回っていました。カワセミは小魚を追って、必ずどこかにいるはずですが、なかなか発見できず2時間ほど過ぎて疲れ、池上橋付近のファミレスでコー

ヒータイムを取り、再び今度は上流に向かって探し始めました。するとまたもや、北の橋付近で私の頭上をカワセミが飛んでいきます。先ほど見た家屋の屋根からかどうかは、その時は確認できませんでした。今度は上流に向かって飛んでいきます。



八幡橋を超え、久根橋を超え、更に上流に向かい、ようやく道々橋のそばの石の上にカワセミが止まっていました。

私は中望遠レンズ(200mm)しか持っていないので、小さくしか写りませんでした。これはトリミングし、周りをカットした写真です。野鳥は近づくと逃げますから、まずは悟られないように決して近寄らず、まずは離れます。私はカメラが趣味ではないので、大きく撮ろうとは思わず、小さくても記録することが主眼です。大きく見たければ、トリミングし拡大すれば良いというスタンスです。それよりも、とにかくいろんな様子を撮りたいのです。そこで、呑川のフェンスにかがみ込んで隠れ、カメラに気がつかないようにし、フェンスの網

の間隙から撮影を続けました。まずはオスかメスかを確認したいと思いました。先の写真で判らなかつたくちばしの下部分がうっすら赤く見えます。どうもメスのようです。しばらく様子を見てみましょう。こちらに気がつかなければ、じっとしばらく

止まっています。その内・・・

大きな声で鳴き始めました。くちばしを大きく開けて、下のくちばしがはっきりと赤い色なのが判ります。



この個体は明らかにメスです。声を上げて、オスが魚を捕ってプレゼントしてくれるようアピールしているようです。

胸を含めて色合いを見ると、まだ灰色がかってきらびやかなヒスイ色が出ていません。つまり幼鳥なのです。

これから鮮やかさを増してくるのでしょう、いよいよカワセミの本格シーズンと思われるます。羽根の色は尾羽から鮮やかさを増してきます。もうちょっとカワセミが姿勢を変えてくれるのを待ちます。



ちょっと首をか上げた瞬間、後ろから尾羽の鮮やかなヒスイ色が見えました。もうすぐで全身が美しいヒスイ色に覆われ、胸もきれいな赤い色に変わるでしょう。なんとか反対側に回って、背中 of 美しい色に変わりつつある部分を撮ろうと思いき、かんでいた状態から姿勢を高くしたとたん、逃げられてしまいました。すでに呑川に来てから3時間を経過し、16時過ぎになりましたので、今日はここで帰りました。

成鳥になるのが楽しみです。

10月5日、久が原図書館に行く途中、久根橋付近の呑川護岸のステップでカワセミを見つけました。じっくりと撮影できず、とりあえずさっと撮ったものですが、ご紹介し

ます。5月に現れて以来、もう10月、カワセミは呑川に居着いた感があります。

いつまでも見られるといいですね。



秋山光明副区長との懇談

地域力を活かし、地域力と協働して
於：大田区役所・8月29日

(福井 甫 記)

会員の南さんの斡旋で、秋山副区長との懇談の機会が設けられ、大坪代表以下8名が参加しました。松原区

長との懇談を希望していたのですが、区長は多忙ということで秋山副区長との懇談になったものです。

呑川の会からは、「懇談の機会設定のお礼とお願い」文書を説明する形で具体的なプランを要請しました。

松原区長は、「羽田空港の国際化を活用したまちづくりと「地域力の重視・活用」、の活用を図ることを2大施策の一つにして、「呑川水質浄化対策の推進」も具体的な重点実施項目に挙げられてます。そのようなこともあってか、秋山副区長も我々の要望を丁寧に聞かれたと思います。当初15～20分ぐらいの時間しか取れないだろうと言われていたものが、結果的には40分ほどになりました。

呑川の会からは 未改修区間の改修プラン、西蒲田地区の悪臭問題を中心に具体策を要請。

秋山副区長の話のポイントは、次のとおりです。

- ・地域力の向上を目指し、地域力を活かし、行政、区民、市民団体と協働する場を増やしたい。
- ・水辺空間の大切さ・重要性は認識している。
- ・差当たり「大田区緊急2ヵ年計画」を策定した。これは本年度と20年度の2ヵ年の計画である。
- ・平成21年度からの10年計画は、公募委員を含め審議会を設け、検討してゆく。

大田区環境保全課長等との懇談

秋山副区長との懇談に引続き、まちづくり課明立係長の調整により9月26日(水)榎田環境保全課長、北行政センターの廣瀬まちなみ整備課長、南行政センターの吉田まちなみ整備課長等と「呑川をきれいにする会」との懇談会が実現した。

懇談内容は秋山副区長の時と基本的には同じであるが、今後とも機会をみてこのような意見・情報交換あるいはさらに課題について検討する場を設けることは勿論区側も了承されており、今後このような場を利用し、具体的・建設的な検討ができることを期待したい。

呑川・カルガモ親子の救出ドラマ

(鈴木 英二 記)

3年前・7羽の子カルガモ

(前回発行した会ニュースの高橋さんのカルガモ生態の記事をみて、会員の鈴木英二さんから電話をいただきました。呑川の新幹線手前の右岸にある自動車整備工場の草むらから、7羽の親子のカルガモが道路へ出てきたそうです。自動車整備工場の奥には木材置き場があるそうですが、道路からはわかりません。そこで、鈴木さんに投稿をお願いしました。)

3・4年前のことです。家を出ましたら、東橋の上からたもとまで、大勢の人ばかり、いったい何事と近寄って見ましたら、人々の足もとを縫うように、一羽のカルガモが、雛をつれて呑川におりる箇所をさがしているのです。しかしそのおりる箇所はありません。

とうとう親鳥は橋から呑川に飛びました。あとを追う雛も真剣ですが、15～7センチの高さがありましょか、コンクリート壁を越えられません。人達もなんとか降ろしてやろうと手を差し伸べますが、その間を七羽の雛は、離れないように逃げ惑います。誰も取り押さえることはできません。私はとっさに自分の班の、カラスネットが川の防護フェンスに、垂らされてあることを思い出しました。橋に近い方を広げ片方を閉じて、そこへ皆さんに追い込んで貰いました。やったあ。七羽の雛は怪我もなく保護できました。さてどうして川面に降ろすか。親鳥は新幹線の下まで行って激しく呼んでいます。私の錆びた頭脳も全回転です。そうだ、ビニール袋に入れて、ひもで吊して降ろそう。事は順調にはこびました。雛の手触りはひよこと違って、丸みととても弾力がありました。さあ、早く親のそばにゆきな。私だけでなく、その場にいたみんなそう祈りました。袋は無事降ろされました。しかし雛は中から出ません。焦ります。親がもっと離れて雛が親のそばに、たどり着けなかったら。みんながそう思いました。24～5歳位の青年がいましたので、「済みませんが下へおいてくれませんか」「申し訳有りません僕は高所恐怖症なもんで」の言葉にどうしようと思っていたとき、「私が降ります」と20歳前と思われる女の人が橋から20メートル上流場所のフェンスによ

じのぼった。そこはフェンスの上部から下まで約7メートルあります。全くの垂直です。その臨時降下用の取っ手を伝って降りてくれました。川底ではどうすれば、袋から出られるだろうかと焦る雛。それをやさしく出してくれました。期せずして拍手が occurred。雛は最初は親を見つけられなかったのですが、流され流されて親と再会しました。ほっとして最も功労のあったあの女の人の名を聞くのを忘れませんでした。いま若し分かったら、もう一度あの時のお礼を言いたいと思っています。呑川の会の事務局の福井さんから、その時の模様を書いてほしいと言われて書きました。出会いは運命を感じますね。(2007.10.13)

呑川・カルガモ親子物語

(高橋 光夫 記)

3年前の現場検証

3年前にやってきたカルガモ親子に関する鈴木さんのお知らせ、ありがとうございます。また若い女性の勇気ある行動にビックリです。呑川のステップに足を掛けるには、あのフェンスを乗り越えなければなりませんから、大変だったと思います。呑川のカルガモ親子が、いったいどこからやってくるかは目撃がないので、なかなかはっきりしたことは判りませんが、福井さんからメールをいただいた後、取材や検証を重ねて来ました。

まずは新幹線の手前、呑川右岸の自動車整備工場です。



左側の新幹線線路沿いと自動車整備工場の間、木々と草むららしきスペースがあります。左手前に見えるのは「境橋」です。この場所でカルガモは生まれたのでしょうか…整備工場の方に取材をしてみました。「数年前は、この奥は草ぼうぼうだった。よく覚えていないが、カルガモの産卵があったかもしれないなあ…ただ今は庭として整備し、もうカルガモが巣を作ることは無い。」とのことでした。その方の記憶に明確にはないようですが、3年前はここで生まれた可能性があります。



そこで、辺りを見回すと…

新幹線のそばには隣接して、周囲は駐車場ですが、大きな畑が残っています。

もう少し下流の畑とともに、ここでカルガモが産卵した話しは、呑川ウォークの時、聞いたことがあります。あらためて確認したかったのですが、なかなか畑作業をしているときに会えないでいます。

しかし、ここで産卵をしたとしても…境橋や、東橋では下までフェンスが取り付けられ、まだ飛べない子ガモにとって、呑川に入ることは出来ません。

鈴木英二さんがやってくださったように、人が降ろしてあげる作業が必要になります。





でもこういう橋ばかりではありません。
下が空いている箇所も、随所にあります。ただ畑の付近の橋には、
残念ながないのです。しかし、
ここから飛び降りても、6～7mもあるのでは、子ガモはきっとかなり怖い
でしょう。

そこで前々からの推論である、本村橋付近の「洗足流れ」の呑川流
入口です。ここは、呑川の水面にかなり近く、子ガモは比較的安全に呑
川に降りられると思います。

前回、昨年「洗足流れ」で7羽生まれ、私が呑川で確認したとき
は6羽だったこととお話しましたが、その時は7月でした。今年は5月に
生まれたようですが、カルガモの繁殖はまだ続いている可能性があり、あ
らためてこの場所から「洗足流れ」をさかのぼり、取材をすることにしまし

た。



「洗足流れ」は狭い水路ですが、両側にガマやハンゲショウなど水辺の草がぎっしり生えています。ここならカ
ルガモの繁殖にはもってこいです。



すると・・・
草むらに隠れるようにして、子ガモが見え隠れしていま
す。やっぱり、つい最近また生まれたのでしょうか。
こんな場所です。左側の草むらにいます。

親が水路で見守っています。





なんとか身体を伸ばし、腕を伸ばして、草の間から子ガモ達を撮りました。数えてみると7羽です。

みんな固まって、可愛らしいですね。



やがて・・・子ガモたちは泳ぎ始めました。この水路はとても狭く、やがて大きくなったらこの場所にはいられないでしょう。

ここは、「洗足流れ」の途中にある公園です。昨年、ここで生まれたと聞いた場所です。また話を聞いてみると・・・



「今年は、もう3回目だよ」と答えてくれました。別の人に聞くと・・・「私はいつもここを散歩しているけれど、今回初めて子ガモ達を見た」同じ地域に住む人でも、関心がある無いでは、ずいぶん違います。

そこで先ほど子ガモが集まっていた草むらのすぐ前にある、美容院のドアを開け、思い切って取材をしてみることにしました。お客様がいるときなら無理でしたが、ちょうど誰もいなかったので・・・

「この子ガモたちは、7月11日に生まれた。卵は10ヶだった。ふ化したのは8ヶで、あと2つはふ化しなかった。その内、1羽はカラスなどに突かれたのか、まもなく死んでしまった。それで今は、7羽しかいない。いつまでいるか判らないが、突然、一斉にいなくなる。」とても良い証言を得ました。ただ、いなくなる時が大雨が降って流されるのかどうかは判りませんでした。



そのとき、子ガモたちが急に動き始めました・・・追いかけていくことにしました。

かなり遠くまで泳いでいきます。植物が茂っている領域を超え、石の護岸だけになり、呑川に近いところへ向かっています。どこまで行くかと思ったのですが、途中でまた戻り始めました。やがて呑川に出る練習だったのでしょうか・・・

こういうことを重ねて、まもなく広い呑川に出るのでしょうか・・・

生まれたところから、広いところに出て行く「カルガモの引っ越し行列」が、新聞などで可愛らしいとよく話題になります。それとも自主的な移動よりも、実際には大雨で流されてしまうことが多いのでしょうか・・・いつ頃、どんな形で呑川に現れるのか、楽しみです。

9月5日から台風9号の影響を受け、始め断続的に雨が降り続いていましたが、7日の朝に台風は関東に上陸した。台風による大雨は山間部が中心で多摩川などが増水したが、呑川のような平地の都市河川への影響はそれ程ではなかったと思われる。しかしその後10日と11日にはまた断続的に雨が降り、特に11日午後には呑川流域の緑ヶ丘では1時間に50ミリ以上の大雨が降った。

この大雨で多分呑川へも大量の下水が越流したのではないかと思い、その影響をみるために、13日の午後1時から3時まで第2京浜国道に架かる池上橋から京急蒲田駅そばの弾正橋まで呑川べりを歩いてみた。そこで以下に当日観察した様子をメモしてみた。

バスを降り池上橋から上流をみると、特に変わった様子もなく、透明できれいな水がさらさらと流れていた。

本門寺前に架かる霊山橋付近で潮が満ち始めていることを感じた。この付近までのコンクリート造りの河底はごみや泥もなく、まるでたわしで磨いたようにきれいになっていた。

護岸の突起物に引っ掛ったごみから判断すると、岸近くまで増水した形跡はみられなかった。養源寺橋付近の護岸に垂れ下がったアイビーも、普段と変わらず青々としていた。

堤方橋付近に来ると、水の色は透明というより青味がかかった色になってくるが、ごみもなくきれいな水であった。

双流橋付近に来ると満ち潮により水が深くなるのでますます青味が増してくるが、特に目立ったごみもない。カメ1匹とコイ1匹が泳いでいた。カメは甲羅を干しながら休む場所もなく、少し疲れた様子で手足を動かしていた。

双流橋を過ぎ JR 鉄橋までは点々と小さなごみが浮いているのが目につくようになった。しかしスカムはなく悪臭も感じなかった。

ごみフェンスが馬引橋下流に設置されていたが、片方の端が護岸から外されていて、ごみは下流に流れ放題であった。(川の増水が予想されたのでわざと外したのか、増水で外れたのかは分からない。)

JR 鉄橋を過ぎるとスカムが点々と浮くようになり、そのスカムの数は下流に行くほど多くなって来た。やはり先日来の大雨で下水が越流したものと思われる。また川に捨てられたと思われるビニール袋や空かんなども少し目立ってくる。

弾正橋から川をみると、潮が満ちて来たためスカムが盛んに下流から上流へと流れている。20分位橋の上からスカムの様子をじっくり観察する。

スカムは直径20センチ位の大きさと厚さは薄く、べとべとしたへどろのような感じである。スカムの上面には油が付着しているようで、表面が少し光ってみえる。やはり下水管にたまった油混りのへどろが大雨で川へ大量に流れ出したようだ。

水の色は青に灰色が混ったような色になっている。水面に点々とスカムが浮いている割には、あまり悪臭は感じなかった。(年をとってせいかわ、或いは以前呑川べりに住んでいたときのひどい悪臭に鼻の感覚がまひしたせいかわ?)

それどころか小さなボラと思われる魚が数匹泳いでいるのが見付き少し驚いた。さすがに水中の酸素が少ないせいかわ、水面に口を出してぱくぱくさせている。カメも1匹疲れ切った様子で手足を動かしている。橋を通りかかった年配の女性2人から「汚ない川ね。魚がかわいそうよね。何とかならないものかしら。」と声をかけられた。(H19.9.14 記)

追記

9月19日の13時半から14時の間、宮之橋(JR 鉄橋からすぐ下流に架かる橋)から弾正橋まで呑川沿いを歩いた。丁度満潮になっていたが、川の状況は先日とは一転して、スカムは全く見られず、ごみも目立たず、比較的きれいな水を満々と湛えていた。なお宮之橋、菖蒲橋、弾正橋で川を覗いたが、弾正橋でカメ1匹が泳いでいたほかには魚は見付からなかった。(H19.9.19 記)

都の下水道局の「新・合流改善クイックプラン(対象期間 平成 16 年度～20 年度)」によると、合流改善のモデル地区として「善福寺川流域」、「江東内部河川流域」、「芝浦地区」の3箇所が設定している。モデル地区に取上げられるにはそれなりの被害があると思われるので、その実態を知るため、呑川の会および東京マイコープ南部環境委員会の8名で次の2箇所を訪問した。(訪問日 8月7日)

善福寺川を愛でる会(代表 鈴木富雄さん)

杉並区環境清掃部環境課

善福寺川は、JR 西荻窪駅 北の善福寺池を水源に南東方向に流れ、和田で神田川と合流するまで区内を貫流し、流域住民も多く区民に親しまれて杉並区の一つの核とあってよいだろう。

両者を訪問して感じた第一は、善福寺川では越流水による悪臭等の問題は最重要課題ではないということだ。たしかに善福寺川にも大雨時のための下水道からの吐け口が68箇所あり、越流水は流入する。しかし越流した汚物は善福寺川内では流されてしまい、善福寺川には滞留しない。そこで悪臭、スカム等は基本的には発生しない。実際、鈴木さんも杉並区の環境課の職員も善福寺川での悪臭問題は意識していなかった。杉並区で住民の苦情の統計では取っているが、悪臭の苦情の発生原因は 飲食店によるもの、アスファルト作業にともなうもの、焚き火 の順で善福寺川の悪臭は全然意識していないようだ。善福寺川の現在の最大の課題は浸水対策で、この9月首都圏に上陸した台風9号でも善福寺川の映像が流されていたし、宮下橋たもとでは実際グランドを掘り下げ、そこを和田掘第六号調整池として一時的な貯水池にする工事が行われている。

従って善福寺川の越流水対策も緊急避難的な対策でなく、長期的・抜本的対策としては分流式を主張されていた。具体的には住宅の平均耐用年数は25年であるから、今後新築する場合は全ての建物で下水道管を污水管と雨水管に分けて敷設し、現在は両者とも合流式の管の接続するが、将来は道路に雨水管を新設し、各戸からの雨水管はそれに接続する。そうすれば30年ほどすれば半数は分流式になっているだろうということである。

< 今後のスケジュール >

- ・11月21日(水) 10時 生活センター「呑川をきれいにする会」例会
- ・11月24日(土) Let's Do2-nguri in 呑川
別添 ちらし参照
- ・12月1日(土) 14時～ 定例会 場所 蒲田小学校予定
- ・2月1日(金) 定例会 時間・場所未定
- ・2月17日(日) エコフェスタ 於:清水窪小学校

★< 編集後記 >

今号は、優れた観察力・行動力のある会員の投稿により、呑川に係わる日常の出来事が、見方・捉え方を変えれば、とても興味ある事柄がいっぱいあるということに気付かされました。今後、全会員が「こんな面白いこと・こんな珍しいことがあるよ」と、気軽にメールで投稿してもらえたら、バラエティに富んだ・面白いニュースとなるなと思いました。

(白石 記)